

☆☆☆ Library Eye 2021 ☆☆☆

第24号 2022年3月1日(火)

発行元 明星中学校・高等学校 図書館



【🌸中3 & 高3の保護者の皆様方、ご卒業おめでとうございます🌸】

今、お子様が通っている校舎は2004年に完成しましたので、ちょうど現高3の生徒たちと同じ年で、これが人間ならばめでたく成人式を迎えるところですよ。

昨年の夏、大学のオープンキャンパスの会場を間違えて、町田キャンパスから多摩キャンパスまでのケモノ道をスマホのGPSだけを頼りに約5キロ、爆走した女子生徒がいました。何とか間に合ったようですが、あとで聞くと、いつも部活動の顧問から指導の一環として度々グラウンドを走らされていたことが「こんなときに役立ちました」とのことでした。人生、何が辛いのか、わかりませんね。

でも、この子が目的地向かって必死に走っている光景を思い描くと、顔から流星のように吹っこんでいく汗までもキラキラ輝いているようで、とても爽やかな印象を覚えるのです。

きっとお子様も、コロナ禍での生活に悩まされながらも、目標達成に向かって一生懸命に頑張ったことでしょう。その結果はどうであれ、なりふりかまわずに「頑張った」という姿勢が尊いのです。

学びにゴールはありません。その学びのなかで夢中になれるものを見つけることができれば、それが、お子様にとってのピカイチの「勲章」と言えるでしょう。

【デジタルデバイスと上手につきあいましょう！】



教育大国フィンランドでは「偽情報を見破るための教育」が小学校で実施されています。『毎日新聞』に連載されていた「オシント新時代、荒れる情報の海」を読むと、SNSは、ディープフェイクの世界への入口でもあることが、強く実感できます。だからこそ、「情報の裏側にある意図を読みとり、真偽を見極めるために必要なのは、批判的に考え、常に自問する」(『毎日新聞』「デジタルを問う」)という習慣を身につけさせることが大切なのです。

そのフィンランドも、最近では子どもたちの読解力の低下が問題視されているそうです。スマホやiPadを利用する時間が過剰に増えることで、本を読む時間が減少したり読書に必要な集中力が低下したりすることが原因とされています。実際、着信音が聞こえただけで、人間の原動力となるドーパミンが分泌され、スマホを見たい、という衝動に駆られるのです。それは、もしかしたら、という不確かな結果への期待感の為せるわざで、カジノやコカインに耽溺するメカニズムとまったく同じだ、と認知科学の専門家である今井むつみ教授は語っています。スマホ依存症になるヘビーユーザーは、怒りっぽく、攻撃的なほどアグレッシブで競争心が強く、活動的な性格の人間に多い、との研究結果(『学びとは何か』今井むつみ・岩波新書)もあります。

デジタルデバイスは、気になるワードを検索したり、最新の情報を得たりするためには、とても便利な「文房具」です。でも、スマホやiPadを多用すれば、かえって子どもたちから探究心を奪ってしまうリスクな「文房具」でもあるということ、決して忘れてはならないでしょう。



【キミに贈る本大賞！今年のテーマは『青春』です。】

読売中高生新聞が、毎年実施している「君に贈る本大賞」(キミ本大賞)は、今回で8回目となります。この賞は、中学校・高校の先生と学校司書が、その年のテーマから、生徒に読んで欲しい本を1冊選んで応募し、応募総数により大賞と上位本が決定します。小説、エッセイ、ノンフィクション、実用書、マンガなどジャンルは問いません。図書館担当の川邊先生と私達司書3名もそれぞれが1冊を選び毎年応募しています。選んだ本がランキングに入ることもあります。違った目線で選ばれる本もあり、生徒に向けての選書なのですが、私達も毎年どんな本がランキングされるかを楽しみにしています。毎年3月に結果が発表になります。今年のテーマは『青春』。皆様も、今年の大賞を予想したり、自分ならこんな本を選びたいイメージしてみたりしてはいかがでしょうか。結果は、読売新聞オンラインで確認できますし、書店でも展示コーナーなどを設置するところもあります。今年の大賞作品は、そしてベスト10はどんな本がランキングするのでしょうか？発表はまもなくです！図書館でも受賞作品を展示予定です。



回	テーマ	大賞作品	著者
1	君に贈る本	こころ	夏目漱石
2	泣ける本	アルジャーノンに花束を	ダニエル・キイス
3	元気をくれる本	夢をかなえるゾウ	水野敬也
4	21世紀を生きる10代へ	君たちはどう生きるか	吉野源三郎
5	友達とは？	友だち幻想 人と人のくつながり>を考える	菅野仁
6	スポーツの力を感じさせてくれる本	風が強く吹いている	三浦しをん
7	困難を乗り越える本	ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー	ブレイディみかこ

【5分(後)シリーズ、人気です！】

「5分後に意外な結末」シリーズ(学研)と、「5分シリーズ」(河出書房新社)という二つの人気シリーズがあるのを、ご存知でしょうか？どちらも5分程度で読める短編小説集で、星新一さんのショートショートのような本です。読書にまとまった時間がとれない、長い文章を読むのが苦手といった人にも手に取りやすいようで、学研のシリーズは累計390万部突破、朝読人気ランキング1位(朝の読書推進協議会調べ)にもなったことがあります。河出書房新社の本は、エブリスタという編集者が投稿された数万作から厳選し、テーマごとに一冊にまとめたものです。「5分で心を動かす」にこだわって集めた、珠玉の短編小説集になっています。

図書館では、5年前に「5分後に意外な結末」シリーズ『「悩み部」の結成と、その結末。』(学研)を蔵書に加えました。以後、シリーズの刊行に伴い(こちらも厳選して)購入し、現在は学研シリーズ20冊、河出書房新社シリーズ15冊になりました。中には、最大の衝撃作『5億年後の意外な結末』(学研)などもあります。貸出数も多く、これまでに300人超が「5分(後)シリーズ」を読んでいます。一番人気は、「それは開けてはいけない扉。止められるからこそ読みたくなる！」(河出書房新社HPより)『5分後に禁断のラスト』で24人が借りています。『5分後に涙のラスト』(河出)22人、『5秒後に意外な結末：パンドラの赤い箱』(学研)21人と続き、多くが4~10人の貸出があります。朝読書に入れている本も多いので、もっとたくさんの方がこのシリーズの短編を読んでいると思われます。

すぐ読めて、ラストに感動、笑い、泣き、恐怖…のどんでん返しを体験!? すき間時間に、親子で「5分(後)シリーズ」を楽しんでみてはいかがでしょうか。

【取材を受けました！】

先日、受験と教育の情報サイト『inter-edu.』の取材を受けました。図書館に来館していただき、実際に館内をご覧いただきながらインタビューに答える形式での取材でした。

興味のある方は、ぜひご覧になってください。https://www.inter-edu.com/edunavi/blog/220225-03/

